

令和6年度 長沼町立長沼中学校 学校経営グランドデザイン

<長沼町小中一貫教育の重点テーマ> 一人一人の学びをしっかりと支え、誰一人取り残すことのない教育の実現

【学校教育目標】

- 長沼の伝統を継承し、先人から学び、地域に尽力できる生徒（ふるさとから学ぶ、地域貢献）
- 高い見識をもち、主体的に学びに向かう生徒（学ぶ意欲、思考力・判断力・表現力）
- 社会を創造して、多様な人たちと相互理解できる生徒（文化や価値観を受容・共感できる能力）

めざす学校の姿

「自分で決められる」学校
(自律した学習者を育てる学校)

めざす生徒の姿

- 「自分にはよいところがある」と言える生徒
- ・伝えられる子
 - ・つながる子
 - ・挑戦する子
 - ・支える子
 - ・行動する子
 - ・ちがいを認められる子
 - ・楽しめる子
 - ・決められる子
 - ・やり直せる子

めざす教職員の姿

- 「自律・自走」する教職員
- ・なすべきことを協働により着実に実践、目的達成のために貢献する教職員
 - ・生徒とともに考え、努力する教職員

経営方針

長沼中学校の生徒と教職員の笑顔と元気をつくるために

- (1) 「いい学校をつくる」ことを目的に、前例踏襲型から変容・刷新型の学校文化への変革を目指します。
- (2) 職務自律性と対話による全員参画をキーワードに、「同じ山に登る」協力関係の高い教職員チームを作ります。
- (3) 徹底して生徒理解に努め、「情と理」を基盤に寄り添い導き育てる積極的な生徒指導を行います。
- (4) 「学校改善＝授業改善」の理念を共有し、授業改善への不断の努力を積み重ねていきます。
- (5) 「生徒の姿こそが本校の取組の結果」とであると押さえ、生徒の姿で説明責任を果たします。

学校経営の芯柱 利他共生 ～for you, with you～

「仲間がいるから学校は楽しい」を実現する教育活動の推進（学校は楽しいを100%に！）

経営の重点

【重点① 授業改革】

仲間をパートナーとした
自律的な学習者を育てる授業づくり

- 1 学習効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメント（教務）
 - ・小中一貫教育推進による義務教育9年間を見通した教育課程の編成と実施
 - ・教科横断的な視点での単元計画の改善
 - ・学習指導と生徒指導を相互に関連づけた教育活動の実施
- 2 仲間がいるから価値がある授業改善（研修）
 - ・「対話」をキーワードに、生徒が主体的に学び合う授業実践（生徒の声がかき合う授業）
 - ・生徒が当事者意識を持ち、自ら問いを持ちながら決起し、試行錯誤を繰り返す学びへの変換（学びの自己調整能力の育成）
 - ・教科指導と生徒指導の一体化
 - 「自己存在感の感受を促進する授業」
 - 「共感的な人間関係を育成する授業」
 - 「自己決定の場を提供する授業」
 - 「安全・安心な居場所作り」に配慮した授業
- 3 ICTの効果的な活用（ICT）
 - ・個別最適な学びと協働的な学びを実現するICTの活用

【到達目標】

- ・NRTの結果、前年度より結果が向上した生徒を70%以上にする。（令和7年3月実施）
- ・「授業が楽しい」「勉強が好き」と答える生徒を90%以上にする

【重点② 心の教育改革】

安心して自分を表現できる仲間づくり

- 4 支持的・親和的な人間関係を育む学年・学級経営の充実（指導）
 - ・ピア・サポートの理念を全教育活動に浸透させ、「傾聴・受容・共感」の心理的安全性を確保した学年・学級風土の醸成（発達支持的生徒指導の充実）
 - ・生徒指導の諸課題（いじめ等）の未然防止をねらいとした意図的・組織的・系統的な教育プログラムの実施（課題未然教育）
 - ・「大きく捉えて小さく収める」を念頭に置いた生徒指導問題への対応（課題早期発見・困難課題対応）
 - ・不登校対応に向けた校内適応教室の開設
 - ・通級指導の充実を含め、個に応じた特別支援教育の充実
- 5 生徒の主体性を大切に活動の充実（生徒会）
 - ・生徒の自主性を尊重し、創意を生かし、目標達成の喜びを味わえる学校行事の推進
 - ・挨拶運動やいじめ根絶などに向けた集会の実施など、自治的な活動の充実
 - ・長沼小児童会活動との積極的な連携
- 6 「特別の教科 道徳」の時間の充実（教務）
 - ・生徒のつぶやき、発言から展開する「考え、議論する」道徳の授業の充実
 - ・外部講師を活用した研修会の開催

【到達目標】

- ・hyperQUの結果、学級生活満足群を60%以上にする。（令和6年9月実施）
- ・「自分にはよいところがある」と答える生徒を80%以上にする。

【重点③ 接続改革】

地域の信頼を高める学校づくり

- 7 小中一貫教育の充実
 - ・令和9年度開校予定の義務教育学校開校に向けた準備
 - ・「ふるさと長沼学」の実現
 - ・小中合同研修会の開催
- 8 開かれた学校を目指した情報発信の充実
 - ・小中合同での学校便りの発行
 - ・ホームページを活用した教育活動の積極的な発信
 - ・保護者会等での学校の取組の発信
- 9 地域との相互連携・協働の充実
 - ・地域素材及び人材を積極的に活用した活動の実施
 - ・部活動の地域移行に向けた連携
 - ・地域ボランティア活動等への積極的な参加

【到達目標】

- ・保護者アンケートで「経営方針や教育活動を保護者や地域によく伝えることができている」と答える割合を90%以上にする。
- ・児童質問紙調査「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」に対し肯定的回答を80%以上にする。

【重点④ 学校組織改革】 議論し、知恵を集める中、納得度の高い結論を導き出すチームづくり

10 目的達成型の分掌組織による業務の推進と特別委員会の機能強化

- ・PDCAサイクルとOODAループ（観察・状況判断・意思決定・実行）による臨機応変な目的の達成
- ・企画委員会と教育課程委員会を定例開催し、主任やミドルリーダー等の裁量権の拡大による独自性と創造性の発揮

11 働き方改革の推進

- ・企画委員会を働き方改革コアチームに位置付け、業務の必要性や効果、優先順位を検討し、業務の効率化を推進
- ・校務支援システム「C4th」の活用による会議及び業務の効率化の推進
- ・部活動の活動時間短縮（夏季18:00、冬季17:40まで）

【数値目標】

- ・時間外在校等時間を1か月45時間、1年間360時間以下にする。（※学校の施設時間 19:00）
- ・教職員の年次有給休暇の行使を10日以上にする。